

## 第2回門真市魅力ある教育づくり審議会

### 各部会での意見（まとめ）

#### ○つながりのある教育の創造部会での意見

- ・子どもの年齢によって発達段階がどんどん変わるので、中学校卒業後の自立を見据えて教育活動に取り組む必要がある。
- ・教科を学習することにより自立する力をつける。教え込み型の授業ではなく、自力解決をさせる。
- ・生徒指導においても、子どもの気持ちを尊重し、課題が与えられたらまずは自力解決させ、学級全体で問題を共有して一つの解決策を作り上げていく授業スタイルに変化している。
- ・学校行事についても自分達で考えさせ解決をさせることが必要である。
- ・クラブ活動により先輩、後輩などの人間関係が築けたり、自己実現につながる。クラブ活動が楽しければ勉強もするようになる。
- ・職場体験学習、インターンシップ、ボランティア活動にも自立につながる効果があり、責任を感じるきっかけになる。
- ・自分のことは自分で考えさせ、悩んだ上で、自己決定をする必要がある。失敗から学ぶことができ、大きく成長する機会にもなる。大人は一步引いて見守りや支援をしていくことが自立につながる。
- ・第3者には子どもは素直に話をする。また子どもの目線で話しかけると意外に素直に話ができる。

## ○子どもの学ぶ意欲向上部会での意見

- ・自己肯定感は、社会生活で必ず必要であり、すべての活動の出発点で、前を向いて生きていけるために必要。将来的にはキャリア教育にもつながるすべての土台である。
- ・自己肯定感を高めるための土台は、親や教師だけではなく親と教師の連携の中で成り立つものである。人間関係づくり、クラスづくり、大人同士の関係づくりが自己肯定感を高めるための土台となってくる。
- ・子どもが大人は信頼できる存在であるという思いをいかに育ていくが大切である。
- ・人間関係づくりには、実は子ども同士で過ごす時間が大事になる。特に中学校では教科担任制になる。そのため、学級経営や生徒会、クラブ活動、行事、キャリア教育などさまざまな場面で子どもたちが自己肯定感を高める必要がある。
- ・教師と保護者がお互いに応援し合えるように親も教師を応援し、教師も困ったら親に投げかけることができる関係づくりが必要である。
- ・大人の目がキラキラすると、子どもも目がキラキラする。そのようなことでいきいきとした学校になってくるのではないのか。
- ・真剣に愛情を向けて、自分を出せる場面をつくる必要がある。学級活動、学校行事、生徒会活動、クラブ活動などのさまざまな場面で、受容と共感に基づくような関係づくりが成立することで、安心できる場ができる。
- ・ひとつ叱るとひとつほめ、あなたのここがダメだがここはいいよというような言葉がけを意識的にしていく必要がある。